

平成20年度 医療問題特別委員会行政視察報告

平成20年10月31日

- 1、日程 平成20年10月14日・15日
- 2、視察先 京都府綾部市立綾部市民病院
- 3、視察事項 病院経営の状況について
- 4、視察者 一行 9名
委員長 佐野正三良 副委員長 亀山重光
委員 森川 豊 広野豊作 高井 保
山田義栄 樋口浩二
同行 近藤直樹 健康課参事
随行 藤田理恵 議会事務局主査

【綾部市の概要】

綾部市は、人口 37,755 人、面積 347.11k m²、京都府のほぼ中央、東経 135 度 16 分、北緯 35 度 18 分の位置にあり、京都市から北西にへだてること 76Km、舞鶴市から南 23Km 地点にある。

中国山脈の余波を受けた丹波高原の中にあつて、市街地を、清流由良川が貫流し、日本海に注ぐ山紫水明の盆地である。

【綾部市立病院】

応対者 白方秀二院長 樋口高夫事務部長 大槻広敏管理課長

【病院概要】

所在地	京都府綾部市青野町大塚 20 - 1
開設者	綾部市長 四方八洲男
開設年月日	平成 2 年 8 月 1 日
管理運営	財団法人綾部市医療公社
沿革	昭和 6 2 年 1 2 月 病院建設基本計画策定
	昭和 6 3 年 1 1 月 病院建設工事着工
	平成 元年 9 月 財団法人綾部市医療公社設立
	平成 2 年 3 月 病院建設工事完成
	々 4 月 病院開設許可・公営企業法適用
	々 8 月 病院開院（150床、13診療科）
	平成 6 年 3 月 外来診察室、手術室等整備工事完成
	平成 7 年 2 月 検査棟（MRI）整備工事完成
	平成 8 年 8 月 訪問看護ステーション開所
	平成 1 2 年 8 月 第 2 次整備（増改築）事業着手
	平成 1 4 年 4 月 々 工事完了（206床、18診療科）
	平成 1 8 年 2 月 第 3 次整備（増改築）事業着手
	平成 1 9 年 3 月 々 事業（救急室、透析室等）完成
	平成 2 0 年 3 月 訪問看護ステーション棟新築移転工事完成

病院理念 私たちは、患者さま本位の医療に努め、地域社会から愛され、親しまれ、心あたたまる病院をめざします。

- 基本方針
- ・ 救急医療体制の充実
 - ・ 循環器疾患の内科的、外科的治療
 - ・ 癌の診断と治療
 - ・ 新生児から高齢者医療への対応
 - ・ 地域医療連携の推進

病床数 一般206床

診療科目 内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、精神科、小児科、外科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、産婦人科、リハビリテーション科 計19診療科

専門機能 救急室（24時間体制）、手術室（4室）、リハビリテーション室、人間ドック室、ICU、CCU、NICU、LDR（3室）、化学療法室、人工透析センター、MRI、CT、核医学検査室、心血管造影撮影室、結石破碎室、等

併設施設 訪問看護ステーション

付属施設 医師宿舎（弥生、綾中、上野、青野西、桜ヶ丘・・・計32戸）
看護師等宿舎（青野、位田、桜ヶ丘・・・計44戸）

患者数（H19年度）

1日あたり患者数	外来	621.3人
	入院	184.4人

病床利用率	89.5%	平均在院日数	14.3日
-------	-------	--------	-------

収支状況（H19年度決算見込）

収益	56億9千9百万円		
費用	56億2千3百万円	純利益	7千6百万円

医師・職員数（H20年4月現在、単位：人）

職 種	正規従業員	契約職員数	計
医 師	37	7	44
薬剤師	9	2	11
診療放射線技師	7		7
臨床検査技師	11	3	14
理学療法士	4	1	5
管理栄養士	3		3
視能訓練士	2		2

臨床工学技士	4		4
助産師	8	3	1 1
看護師	1 5 8	1 4	1 7 2
准看護師	8	6	1 4
看護・診療補助者	2	3 1	3 3
事務職員	1 6	4	2 0
計	2 6 9	7 1	3 4 0

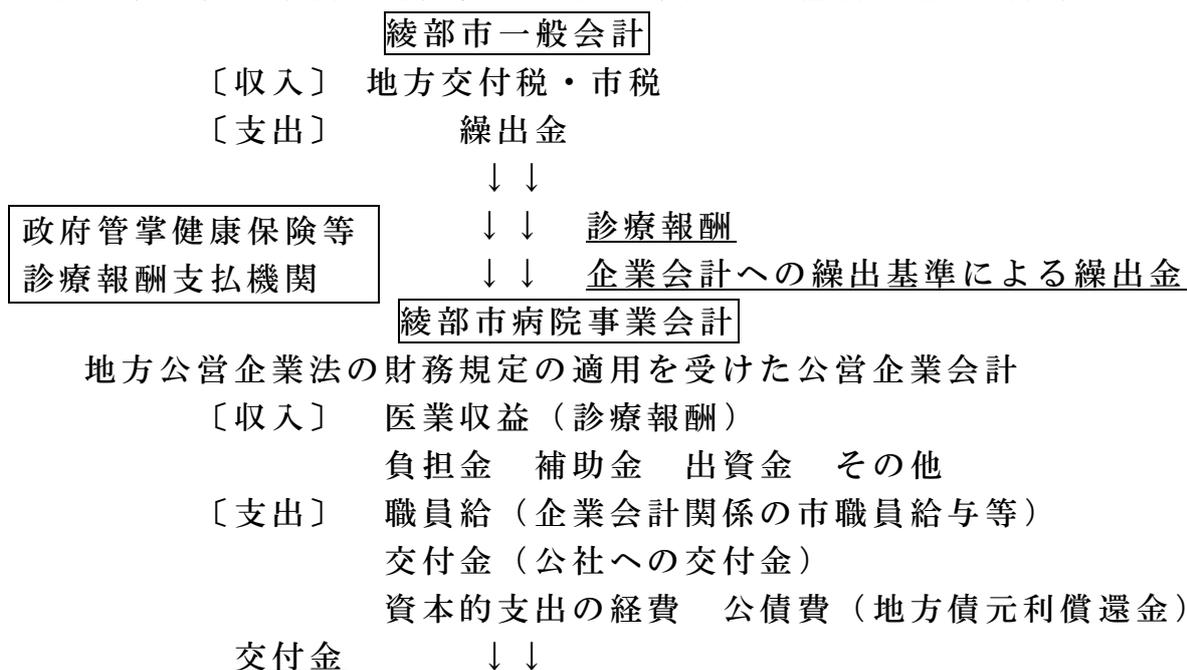
〔訪問看護ステーションを除く〕

主な医療機器

磁気共鳴断層診断撮影装置（MRI） ヘリカル CT 装置
マンモグラフィー 血管造影検査装置 骨密度測定装置
コンピューテッドラジオグラフィー 核医学検査装置（RI）
体外衝撃波結石破碎装置（ESWL） 大動脈バルーンポンプ
自動分析装置各種（生化学・血液凝固・血球分析 etc）
人工透析装置 超音波診断装置各種 人工心肺装置
内視鏡視下手術装置各種 etc

L D R （LABOR DELIVERY RECOVERY）・・・最新鋭産科分娩装置
産科では母児同室制、アクティブバースを取り入れ、母児に
優しい分娩育児をモットーにしている。陣痛、分娩、回復を
同じ部屋で行う L D R は陣痛時に病室から分娩室に移動する
必要がないため、妊婦の負担がかなり軽減される。

【綾部市病院事業会計と財団法人綾部市医療公社会計との関係図】



交付金 ↓ ↓

財団法人綾部市医療公社会計

- 〔収入〕 交付金収入（企業会計から）
財産収入 その他
- 〔支出〕 職員給（公社職員の給料等）
材料費（医療材料、薬剤等）
経費（施設管理等）その他

院長（白方秀二）コメント

’08.5.29

○ この病院が発展してきた理由

- 1) 立地条件（開院前は医療過疎地）に恵まれたこと。
- 2) 医師に限らず職員全てが能力を出し惜しみせず働いていること。
－医師派遣は府立医大関連医局の全面バックアップにより医療崩壊前まではスムーズに行われてきたこと。
- 3) 最新の医療機器を他病院に先駆けて購入でき、毎年医療機器を一定額予算化し市に提出購入でき併せて高度医療を行っていること。
- 4) 開院後、すでに4度の増改築を行ったが、その都度設計士に依存せず担当部署職員全員で設計プランニングに参加してきたこと。
- 5) 病院の管理運営に開院以来、いわゆる市からの充て職としてではなく、継続して有能な職員の派遣が継続して行われていること。
平成20年4月1日からは、病院事務部長は専任とした。

○ 病院の特徴（自己評価）

- 1) 平成2年8月開院以来、外来患者数は増加し、入院患者はほぼ満床である。
- 2) 常勤職員は開院当時108名であったが、現在280名となっている。
医師は開院当初13名であったが、現在44名(研修医7名)となっている。
- 3) 平成19年度の医業収益は55億円で、16年間連続健全経営を達成維持できている。
- 4) 5年前、全国自治体病院優良病院表彰を受け、同時に総務大臣表彰も受賞することができた。
- 5) 4年前には日本病院機能評価機構による認定病院になることが出来た。
- 6) 4年前に管理型臨床研修指定病院となり、現在全国公募(定数4名)で研修医を採用している。
- 7) 医学生・看護学校生に総じて人気の良い病院である。

【所感】

綾部市民病院の人口規模は加茂・田上地域と類団であり病院の健全経営の優良モデルである。産科は最先端施設が導入されており圏域外からも3割のお産入院があり、分娩件数は年400で自治体病院の模範である。